

授業改善書

科目名	経済政策論
担当者	船木恵子

授業の概要

我々の暮らしに関係する経済政策や、なぜ経済政策が我々にとって必要なのかという基本的な学習をおこない、「世界の中の日本」という視点を持ちつつ、市場原理の限界と経済政策を理解する講義である。

授業の問題点

高校の政治経済の分野で習うはずの基礎的な用語や事項を理解していない学生がほとんどである。
したがって高校で習う部分に戻って学習することが必要だった。そのため小テストから確認ペーパー、論述の練習と、書く力を段階的に引き上げる必要があった。
時事問題をディスカッションするようなブレインストーミングにもっと時間を割けると良かったがなかなかおこなえなかった。

学生の授業満足度

授業アンケート調査では4.89という数値だった。また学生によるコメントでは復習の時間を多くとったのでありがたかった、とのことだったが、教える側としては、もう少し考えたり発言したりというような内容にしたかった。教師としては反復練習型の復習テスト形式で申し訳ないはずと思っていた。

授業改善の課題と方策

学生たちは比較的小となしく、こちらから質問しても黙っていることが多い。そのためなるべく自分の考えをまとめる能力をつけたいと考え、確認ペーパーやコメントペーパーを多く実施した。しかしその際に、文章をまとめる能力に学生間の格差があり、すぐに終わる学生といつまでも考え込んでいる学生がいて、授業後半でまとめてもらう時間の配分に苦労した。しかし自ら学び自ら考える力をつけることは大学での教育期間だけの問題ではなく、学生たちが社会に出てからも必要になる。今後も「論述」は続けていくつもりだが、もう少し良い方法を見出したいと考える。例えば模範的なペーパーを匿名で配布するなど良いかもしれない。

その他

特にない。